

～ WITH コロナ時代に その2 ～

 HIV 検査・相談は今？

前回のエイズ通信で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部保健所等におけるエイズ検査が休止となっていることについて触れました。福島県においては、HIV 抗体検査件数は、令和2年1月～6月201件、令和3年1月～6月32件と減少。相談件数は、令和2年1月～6月177件、令和3年1月～6月183件とやや増加しています（同時期で比較）。 ※API-Net より

★エイズ相談・検査について、本年9月各保健所に電話インタビューをしました。

郡山市保健所では、以前より予約なしの検査は月1回第3土曜日にビックアイの郡山駅前健康相談センターにて定員18名、要予約の検査は月2回第2・4火曜日に郡山保健所にて定員15名で実施し、昨年度は新型コロナ感染者の動向をみながら、休止・再開を繰り返していたとのこと。今年度は予約なしの検査は昨年12月を最後に休止中、要予約検査は今年8月から再開しており、月1回第2火曜日、定員7名で実施しているとのこと。また、検査と相談の電話を分けていないため、予約を取りながらの相談がほとんどで、検査数はコロナ以前と比べると4分の1程度に減少しているとのことでした。

◎郡山保健所における一般相談件数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
男性	615	515	208
女性	235	208	63

◎郡山保健所におけるHIV・梅毒検査件数

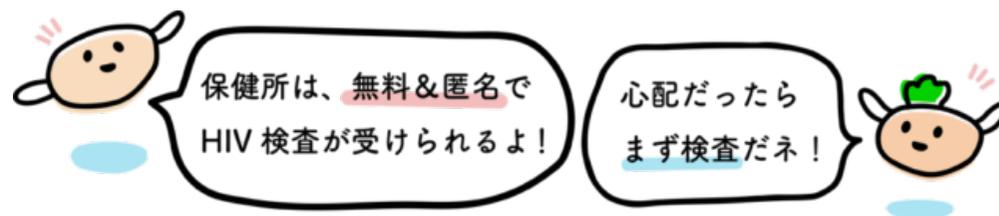
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
郡山保健所	263	221	91
駅前	221	185	57

検査担当者としては、コロナ禍で検査枠が制限されているため、エイズの早期発見・早期治療の妨げになっていると感じており、検査の問い合わせはあるためニーズはあるものの、相談機関につながっていない方もいるのではないかと心配していると、郡山市保健所竹石様よりご回答いただきました。

いわき市保健所は、HIV検査は今年度実施しておらず実績無し。昨年度は2桁程度とのことでした。担当者からは、コロナ業務に追われて十分にHIV検査が行えていないことが気がりであるとのことをお話をいただきました。

相双保健所は今年7月から電話相談とHIV・梅毒検査・B型及びC型肝炎抗体検査として検査を再開しているとのこと。さらに、エイズの街頭キャンペーンなどは実施できないものの、保健所内において検査やエイズ予防啓発におけるブースを設置するなどしているとのこと。

会津保健所は、県でコロナ患者の一例目が発生した以降、完全にできなくなることではできないため規模を縮小して実施。今も縮小したまま継続中。夜間の相談・検査を中止し日中のみの予約としたため、相談者が「考えます」「他で相談してみます」となってしまうこともあったとのこと。しかし、基本的に匿名での予約の追跡することもできず、その方が他で検査を受けられたのか、心配することも多いそうです。まだコロナ禍前のように検査・相談の体制を戻せない状況で、これまで、梅毒や肝炎等の検査も「一緒にどうですか？」と勧めていたため、他の感染症も含めての早期発見が遅れてしまうのではないかと不安もあるとのことでした。



保健所等での検査は中止のところも多い中、全国の一部自治体によっては、郵送検査に取り組んでいるところもあるようです。プライバシーの観点からも、希望者にとっては安心できる方法の一つかもしれません。

## 差別や不平等を考えよう

差別ゼロデーをご存じですか？2013年12月1日、オーストラリアのメルボルンで開かれた世界エイズデー式典で、国連合同エイズ計画（UNAIDS）により、「差別ゼロの日（3月1日）」を定めることが発表されました。残念ながら、HIV/エイズに対する正しい知識・理解がないことから、いまだに偏見や差別が根強く残る国や地域も数多くあります。偏見や差別を恐れて検査を拒み、その結果として保健サービスや治療を受けられない事例、そして感染がさらに拡大する実態も報告されています。

国連合同エイズ計画（UNAIDS）は今年の「差別ゼロデー」キャンペーンのブローシュア（啓発冊子）を作成しました。テーマは『End inequality（不平等に終止符を）』。新型コロナウイルス感染症のワクチン対策により、不平等が国際的な課題として改めて浮上しており、「COVID-19の流行が最も脆弱な人びとに最も大きな打撃を与えている」、「ワクチンが利用可能になったとはいえ、そのアクセスには大きな不平等がある」ことを述べています。そして冊子の中では、不平等のファクトとして、以下のようなショッキングな数字も述べられています。

# 不平等に終止符を

# 68

HIVの非開示、暴露、感染を法律で具体的に犯罪としている国が（少なくとも）68カ国あります。

# 69

いまなお69カ国が同性間の性行為を犯罪としています。



# 17

トランスジェンダーの人たちに対しては17カ国が犯罪者として扱っています。



※世界差別デー 啓発冊子より

昨今世界中で取り組まれている『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。その中では、「ジェンダー平等の実現」や、「不平等をなくす」ことが述べられています。



SDGsは、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、日本も積極的に取り組んでいます。ビニール袋の有料化など、エコに関するものは身近な取り組みを感じやすいかもしれませんが、一方でLGBTQやエイズなどの感染症への偏見や不平等について、私たちは意識しているでしょうか。定期的に行われていたエイズ街頭キャンペーンも中止されている状況で、エイズやセクシャリティ、ジェンダーにおける差別について意識する機会が減ってきているかもしれません。支援対象者として考えるのではなく、私たちが人間として暮らす日常の中で、それらの差別や偏見、不平等に無意識になっていないだろうか…、改めて考える必要があると思います。

※参照 API-Net、日本赤十字社 HP、外務省 HP

### ◆エイズの基礎知識についておさらいしたい…という方へ◆

図解でわかりやすく説明してあります。ぜひ活用してみてください。

API-Net 「マニュアル・ガイドライン」より

- ★『HIVや梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本』
- ★『クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキ』

PDF版で掲載されています！